



# 全国一般評議会

# 闘争情報

No.241

2013. 3. 18

東京都千代田区六番町 1

TEL 03-3263-0441

FAX03-5210-7422-5

## 第10回青年女性交流会を開催

—震災・原発・戦争・・・の問題を考え続けよう—



3月16日～17日、鹿児島県において、自治労全国一般評議会第10回青年女性交流会を開催し、全国から69人が参加した。

交流会初日には、鹿児島市内のホテルで全体集会を行った。地元鹿児島地方労組の末吉青年女性部事務局長の司会で開会した後、主催者あいさつで、八木澤全国一般評議会副議長は「この交流会も10回目を迎えた。第1回目を開いた先輩たちに敬意を払いたい。毎年この時期にこの交流会が開かれてきた中で、2年前の交流会の開催日前日には東日本大震災が発生した。震災がもたらした諸問

題の解決策はなかなか進まないが、将来、状況がかなり明るいものとなったとしても、この時期にこの交流会が開催され参加することで、東日本大震災についてしっかり振り返る機会にしていきたい」と、また、宮本鹿児島地方労組青年女性部長は「今回の交流会に全国から集まれた皆さん方がいろいろな話をして交流し、いろいろなことを学びあえるようにしていきたい」と述べた。さらに、大浦鹿児島地方労組委員長(全国一般評議会議長)、榮留自治労鹿児島県本部委員長、永福連合鹿児島青年委員会委員長から地元歓迎あいさつ、石口自治労青年部常任委員から連帯あいさつを受けた。

続いて、参加者全員の自己紹介。それぞれ、地方労組・職場での活動や、今回の交流会参加に当たっての思いなどを交えながら、自己紹介の発言は続き、中には、「今度支部で青年女性部を結成する予定なので、そのためにも勉強に来た」との話もあった。

### 【原発がなくても電力は十分賄える】

次いで、この交流会での講演の1つ目として、鹿児島県議会議員の二牟礼正博さんから「脱原発社会に向けて」と題した話を受けた。二牟礼さんは、福島第一原発事故がもたらした諸問題や、原発を無くして日本の電力は賄えるのか、といった点について、いろいろなデータを示しながら、「福島第一原発事故は決して『想定外』ではなかった。いわゆる『原子カムラ』の人たちをはじめとする組織の人々の責任所在の曖昧さ、もたれかかりあい、といった体質のもとで、そうした事故が起きる危険性と対策についてとことん突き詰められるところまで突き詰めるということが怠られて

いた中で起きた事故だ」、「発電後に出る高レベル放射性廃棄物の最終処分方法が見いだせていないにもかかわらず、『安全神話』が作り出され、これほどの原発が作られてきたという事実を、重く受け止めなければならない」、「野田政権が『2030年代に原発ゼロをめざす』ことを閣議決定できなかったのはつくづく残念。かように『政治』というものは重要なものである」とした上で、「需給調整やエネルギー政策によって、原発が無くても日本の電力は十分賄える」と述べた。



### 【納得できないことにはしっかり反発を】

次に、講演の2つ目として、前全国一般鹿児島地方労組委員長の藤久保誠さんから「労働組合における青年女性層に伝えたいこと」と題した話を受けた。藤久保さんは、「何か納得できないことがあった場合には、そのことについてしっかり調べて考えた上で、それでも納得できないならば、そのことに対して、しっかり論理的に反発し活動して行ってほしいと思う」とした上で、現在の日本において、看過せず、問題視し、青年・女性層ら多くの人たちになにがしか行動を起こして行ってほしいと考えている諸々の点について述べた。

また、第1日目の夜には、参加者全体での夕食懇親会が持たれ、さらに交流を深めた。

### 【「特攻隊」を見学して、反戦の思いを深める】

交流会2日目の部では、今回の交流会が鹿児島県での開催となったことと連動させて、太平洋戦争末期に陸軍特攻隊の出撃基地となった知覧地域を訪れ、基地跡地の一角にある「知覧特攻平和会館」を見学し、とりあえず「右・左」の枠にこだわらずに、「特攻隊」が実際にどのようなものであったのかに触れて、「戦争はしてはいけない」ということについてさらに認識を深めた。

日程の最後に、交流会のまとめとして、八木澤副議長は「交流会2日目の本日は、知覧特攻平和会館を訪れ、若者がこのように死んでいった事実を眼前に突き付けられた。戦争の問題を日常的に



考え続けている人はなかなかいないだろう。昨日の講演での原発の問題についても、原発立地地域から離れている人たちは、普段は、立地地域の人たちに比べて問題意識は薄いのではないかと思う。今回の交流会で、戦争の問題にしても、原発の問題にしても、改めて、皆にとって大きな問題として考えていくきっかけとなったと思う。今回の交流会で得たこうした問題意識を、しっかり持ちつづけ、ここに集まった全国各地の職場の仲間にも広げていければと願う」と述べ、今回の交流会の全日程を終了した。